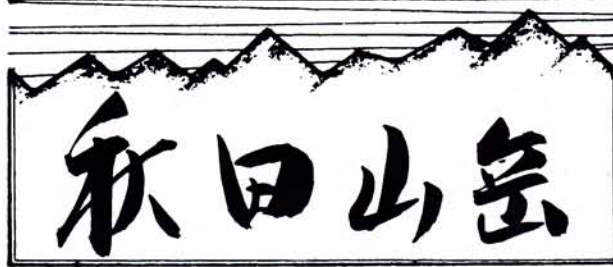


2013



平成 25 年 7 月 発行

No. 90

公益社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市千秋久保田町
2 番 23 号 佐々木方

TEL・FAX 018(833)2525

発行者 佐々木 民 秀

編集者 鈴 木 裕 子

平成25年度 秋田支部総会

平成二十五年度 支部総会開催

平成二十五年度秋田支部総会は、四月六日午後二時から、秋田市の「協働大町ビル」において開催された。

総会開会の前に、昨年十二月他界した、故伊藤秀雄委員、故杉山雄幸委員に黙祷を捧げた。

総会は鈴木事務局長の進行で始まり、会員総数六十五名、出席会員二十二名、委任状提出会員三十二名を確認。

はじめに佐々木支部長から、公益社団法人スタートから一年が過ぎ、それに伴って事務運営が複雑となり、担当者にはご難儀をかけている。高齢化と二足草鞋の秋田支部としては厳しい運営が求められるが、個々の山行を重んじ、実情に合った楽しい山登りをしていただきたい。これからも運営にご協力をお願いする等との挨拶があった。続いて、鈴木副支部長を議長に指名して、案件の審議が行われた。

案件一 平成二十四年度の事業について鈴木事務局長が報告。春・秋の支部山行、また、台湾・北大武山に登頂し、支部山行として台湾五岳に登頂したことは支部の大きな記録となること、公益的の事業として太平山前岳歩道分岐への案内板設置や中岳山頂周辺刈り払い等をおこなったこと、会報の発行は三回、支部長会議、事務局担当者会議、本会総会並びに年次晩餐会への出席等

の報告。

案件二 平成二十四年度収支決算について鈴木事務局長が報告。高橋会計監事から、四月三日、秋田市のアルヴェにおいて行われた会計監査の結果、関係書類が適正に処理されていることが報告され、事業及び決算は承認された。

案件三 平成二十五年度事業計画は、鎌田委員から春秋の山行について、鈴木事務局長からは、会報の発行、東北・北海道地区集会、全国支部懇談会や年次晩餐会への参加、公益的の事業として、太平山中岳歩道刈り払い、太平山山開き市民登山への協力等の案が説明された。その他として、「新日本三百名山」執筆依頼の件、募集登山の旅行業規則等について支部長から説明があった。

案件四 平成二十五年度予算案について鈴木事務局長兼兼会計担当から、本会の助成金・補助金について、周年記念事業への積立等の説明がされ、事業計画、予算案ともに承認された。総会は午後三時頃終了し、「台湾・北大武山登頂報告」のスライドショーを鑑賞後、引き続き行われた懇親会は、奥村会員の乾杯の発声で始まり、春山山行への期待、会員の個人山行情報等、四方山話、さらに堀井会員のハーモニ

カ演奏で山の歌を合唱して大いに盛り上がり、午後七時頃、今野副支部長のお開きの乾杯で散会した。

お礼 次の方々からご労志を頂きました。厚くお礼申し上げます。
進藤 昭 安藤武俊
五千元 佐藤昭義 佐々木民秀



平成 25 年度総会

出席者(順不動)

- | | | |
|------|-------|------|
| 進藤昭 | 佐々木民秀 | 奥村清明 |
| 福田光子 | 真坂洋一 | 今野昌雄 |
| 鈴木要三 | 大山健助 | 若月 寿 |
| 鈴木裕子 | 堀井 弘 | 鎌田倫夫 |
| 佐藤 博 | 高橋忠雄 | 佐藤栄治 |
| 石川祐子 | 柴田 勲 | 三浦真六 |
| 長岡幸則 | 佐々木長秀 | 安藤金栄 |
| 藤田正義 | | |
- 懇親会のみ出席 小笠原義雄

春の里山山行 岩谷山と筑紫森

安藤 金栄

五月二十六日(日)、春の里山山行、岩谷山と筑紫森を鎌田委員と共に担当して実施した。

今年、五月に入っても五月晴れの日が数えるほどしかなかったため、この日は若葉の緑が輝くように美しい、好天の山行日和、ユフオーレの駐車場に集まった参加者は二十一名(会員外八名含む)、予想を越す賑わいとなった。私は、岩谷山も筑紫森も初めて登るのでとても楽しみにしていた。

岩谷山(三六六m)は気壁に登れるハイキングコース。登山口発八時二十分、軽い足取りで杉林を進む。

途中、クロモジの葉に日の光が射し込みキラキラとまばゆい光に初夏の訪れを感じる。つづら折りの急登をゆくりと登り、四十五分程で四等三角点のある山頂着。少し先にある岩場の展望台へ、さらに岩谷山神社からの表参道登山道へ少し進み、岩窟に修験者が籠って修行したと言いつた穴の奥の上部岩峰まで。岩峰によじ登り、ここから新緑に包まれた岩見三内集落や田植えが終わったばかりの水田を見渡す。

古くからの山岳信仰のこの岩峰直下には、胎内くぐりを通して山頂に至ることが出来たそうだが、今は崩壊して通行禁止となっている。山頂にもどり、記念撮影後下山。周

囲を見渡しながら下ったが、山菜は見つからなかった。ユフオーレ駐車場まで戻り、次の山、筑紫森の広場へ移動。



岩谷山頂上

筑紫森(三九二m)へは、駐車場広場から徒歩五分で登山口へ。十時二十分発。つくしんぼうのような山頂を目指して登り始める。水場を過ぎ、尾根伝

いに表参道を登り、急登の岩場を越えて板状節理となっている天狗の油こぼしをトラバースする、横臥柱状節理の岩が階段状になっていて筑紫森神社のある頂上に着く。狭い山頂部なのでこぼれ落ちないように注意して記念撮影。前方には先ほど登った岩谷山、後方には大蛇ヶ峰の名称のある太平山が残雪と若木の緑に映え、風格と威厳を醸し出している。

筑紫森神社には、五穀豊穡を願う保食神が祀られていて、太平山、岩谷山と共に古くからのお山巡りの信仰の山だそう。

筑紫森の由来は、石が積み重なっていることから築石、つくしんぼうに似ているから、アイヌ語のチャシ(岩)森からの言い伝えがあるという。

私は、この山の東側の絶壁露頭の「千本垂木」と言われている柱状節理が、もつとも良く現れている奇観を楽しみにしていたが、崩壊が進み、通行止めとなっていて残念だった。

下山は三十三観音巡りコース。彫られた洞窟に祀られている観音像を拝みながらガレの急斜面を下る。

岩壁を見上げ、昔はここで岩登りの練習をしていたと云うが、現在は、筑紫森の横臥柱状節理の岩は国の天然記念物に指定されていて禁止されているという。

間もなく尾根道にでて裏参道を回り登山口に出る。周囲を見渡してきたが、この山にも山菜は無かった。

往復約二時間の登山を終え、広場の木陰で遅めの昼食となった。

久しぶりに会った仲間との懇談は、山の情報、山菜等の話に花が咲き、飲

み交わし、賑やかであった。昼食後、ここで希望者は、協和町福部羅・小種地区の強首輪中堤や菜の花畑の鑑賞に出席して流れ解散となった。好天に恵まれ、参加者の皆さんのご協力で楽しい一日であったことを感謝致します。



筑紫森頂上

- 参加者 佐々木民秀 今野昌雄
小笠原義雄 大山健助 鈴木裕子
鎌田倫夫 佐藤博 高橋忠雄
石川祐子 柴田勸 佐々木長秀
安藤金栄 熊谷光子
会員外 柴田路子 佐藤満子
塚田もも子 鈴木茂男 山崎真紀子
吉川昭子 永田誠一 佐々木隆

太平山山開き市民登山に協力

鈴木裕子

六月九日、毎年六月第二日曜日に開催される秋田市、五城目町、上小阿仁村で構成される「太平山県立自然公園整備促進地域協議会」主催の山開き清掃登山にサポートとして協力。

旭又登山口からは約六十名、丸舞コースから約二十名、萩形コースから約三十五名の参加者。

秋田市の一般参加者三十名程は、三班編成で旭又コースから登る。薄らと曇り空で暑くもなく、寒くもなくの登山日和。

今年は雪解けが遅く、歩道の一部に残雪もあり、木々の葉の開くも遅く、花々がとても良く観察できた。ヒメシヤガの群生、シラネアオイ、タカネスマレ等の花々が美しく、参加者は大喜びでカメラに収めていた。

木々の間から、御手洗沢の水芭蕉の群落が見えてまもなく御手洗の水場着と青空が広がり、風が心地よい。登山道両脇のシラネアオイ、イワカガミ、カタクリ等の花々に歓迎されながら頂上着。

お天気に恵まれて一般登山者も多く、山頂は大いに賑わっていた。山頂からまだ所々に残雪のある風景を眺めて、今年の雪の多さが窺えた。上小阿仁村から登る萩形コースは林道崩壊箇所あり、そこから歩いて約五時間かけて登ってきていた。

丸舞コースは登山道にまだ雪が残っ



太平山頂上

秋田支部参加者

- 佐々木民秀 鎌田倫夫 堀井弘
- 鈴木裕子 佐藤博 安藤金栄
- 今野昌雄 福田光子 長岡幸則
- 石川祐子 藤田正義

ていて、さらに一部が崩れていて大変だったとのこと。山頂神社で安全登山祈願祭が行われ、記念撮影後下山。事故もなく、全員無事に下山した。

本会通常総会終える

平成二十五年六月十五日、午後二時から東京都千代田区・主婦会館プラザエフにおいて開催。

尾上会長の任期満了による四年間を振り返っての退任の挨拶があった。

議事は、平成二十四年度事業報告(高原理事)、収支決算報告(小林理事)、二十五年・二十六年役員(理事・監事)案が承認。

報告は、二十五年事業計画及び収支予算、その他。

質疑 ①高尾の森は何故常務理事会直轄か、②除籍予定者に会報等は送付しているのか、③新しい理事の選考の条件。総会は、午後三時四十分終了。

終了後の懇親会で、会長に森理事、副会長に節田、黒川、古野の三理事が予定者として紹介された。

※会長、副会長、常務理事は臨時理事会で決定する。

佐々木支部長出席

会員数情報 平成二十四年度末

◎会員数	五〇八三名
名誉会員	一七名
名譽会員	一七名
永年会員	二九九名
終身会員	一〇六名
通常会員・他	四六六一名
秋田支部会員数	六十四名

(平成二十五年四月一日現在)

支部会員の動向

- 入会 藤田正義(二十四年六月)
- 退会 吉川信市(二十五年三月)
- 莊司昭夫(二十五年三月)
- 物故 伊藤秀雄(二十四年十二月)
- 杉山雄幸(二十四年十二月)

第一回支部長会議開催

六月十五日、総会に先立ち、午前十三時十分から本会会議室で開催。

佐々木支部長出席

尾上会長から、四年間を振り返っての退任の任挨拶「豊富な人材と能力のある人材に助けられ、頑張る事が出来た事、各支部が強くなれば本会も強くなるので力を蓄えておく事、誰でも自由に入りの出来るルームを持つこと、支部山行を多くし、同好会化すること、復建・復興・活性化すること、公益的な対外事業を推進すること、であった。議題は、①新支部長の紹介(十支部)、②二十五年通常総会内容、③会費滞納除籍予定者について。

会務報告は、①二十五年各支部への運営交付金・事業助成金について、②三百名山について、③旅行業に基づく「募集の手引き」について、④「山の日」制定については、超党派「山の日」制定議員連盟が発足(衛藤征四郎会長、谷垣禎一最高顧問)。現在百名が参加し、これまでに六回の総会を開催。議員立法の早期実現に向けて進むとのこと、⑤YUTHLUBについて、⑥子どもの夢基金について。

質疑 ①会員名簿は作成するのか(福岡支部)、②除籍予定者は会員番号一万四千台が多いが、その理由は(秋田支部)

「新版・日本三百名山登山ガイド」の発行について

日本山岳会は、事業の活性化を図る目的で「収益事業・会員サービスプロジェクトチーム」(リーダー・節田重節)を立ち上げ、「日本三百名山登山ガイド」の出版計画が二十四年十二月の理事会で決定された。

二十五年一月、会長の新年挨拶状で初めて各支部に知らされた。一月に行われた事務局担当者会議やメール等で執筆依頼があり、当支部の役員会で協議した結果、希望者はおらず、後日に実績のある会員にお願いし、承諾を得たものである。秋田支部担当は七山、執筆者は次の通り。(取材費等は個人負担)

- 秋田駒ヶ岳(男女岳) 今野昌雄
乳頭山(烏帽子岳) 今野昌雄
和賀岳 奥村清明
森吉山 奥村清明
太平山 佐々木民秀
神室山 奥村清明
鳥海山 真坂洋一

「新版・日本三百名山登山ガイド」(上・中・下巻) B5判 各二〇八頁(予定)

予価 各巻 二九八〇円
フルカラー
編者 日本山岳会
取材・執筆・撮影 日本山岳会各支部
取材期間 二〇一三年二月から
二〇一四年一月(一年間)
発刊予定 二〇一四年五月下旬
出版元・山と溪谷社

佐々木民秀会員

「秋田県の2等三角点の山」と「大館トレイルの山」を完登

佐々木民秀会員は、四月十三日に大湯・諸助山に登り、秋田県内の二万五千分一の地図に記載のある2等三角点の山・一〇〇山(大山含む)を、また、昨年発行された「大館トレイルの山」の鍋越山(大茂内)へ四月二十二日に登り、同ブックの五十六山を完登しました。(二等三角点二十四山は完登済)

会員で、其々の目標としている山を完登された方は、事務局へお知らせください。

行事参加報告

◎秋田県山岳連盟総会

四月二十一日、イヤタカに於いて開催。役員のほか、代議員七名出席。事業、決算等諸議事を審議。森吉山スキ場跡地への植林事業、その他等承認。

支部関係出席者
高橋守 今野昌雄 小野信也
後藤浩二

◎中央地区山岳協議会総会

六月二十七日午後六時三十分から、三吉神社齋館で開催。十一団体から十五名出席。

事業・決算の報告や事業・予算案を審議し、其々承認。

山開き市民登山への協力、太平山歩道の倒木処理と清掃、刈り払い等を計画。又、中高年登山者の事故が続いていることから、遭難対策や募集登山の留意点等の話し合いが行われた。

当支部から佐々木(民)、堀井出席
統いての懇親会では各会の活動状況等報告。午後九時三十分散会

支部会員

執筆図書紹介

川島 由夫

「山岳・音楽・文学」

自然と芸術をこよなく愛する著者の「折々の想い」「心に山ありて」「ハムレットが好きなのための音楽」に引き続いての第四弾。日本三百名山の登頂に至るまでの経緯とその一覽、想い出多き山々などが載せられている。

B5版 四百頁 発行所 朝日出版社 定価・本体一七一四円

訃報

― 裴三鎮氏逝去 ―

長年、当支部と親交のあった韓国山岳会元副会長、同元老会会長の裴三鎮氏は、転倒によって頭部を打撲され、去る二月二日に入院先の病院で永眠されました。(享年九十一才)

謹んで哀悼の意を表します。

裴三鎮氏は、平成十年九月に行われた全国支部懇談会秋田男鹿集會に、曹斗鉉氏(故人)と共に参加されるなど、その前後に渡って数回来秋。

故曹斗鉉氏と共に韓国山岳会を指導していただき、秋田支部訪韓事業に多大なるご貢献を頂いた。

また、訪韓登山の度に、歓迎の宴を開いてくださり、秋田支部会員との交流を大事にしていた。太平山や駒ヶ岳にも登られていた。

心からご冥福をお祈り致します。

― 裴允淑氏逝去 ―

韓国山岳会慶南支部との交流に当たり、通訳としてご尽力を頂いた馬山市の裴允淑氏は、病氣療養中のところ、昨年の四月二十二日に永眠されました。(享年九十三才)

謹んで哀悼の意を表します。

裴允淑氏は、慶南支部長崔在一氏の義父で、戦前は大阪住。戦後は在日商社マンとして活躍されている。心からご冥福をお祈り致します。